

＜ もくじ ＞	
1. 2025年度定時総会・創立25周年記念大会概要報告	1
2. 研究会からのお知らせ	3
3. 各研究会の概要報告	4
4. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2025年度定時総会・創立25周年記念大会概要報告

(1) 2025年度定時総会

1) 日 時：2025年6月7日（土） 11:00～12:00

2) 会 場：千葉商科大学市川キャンパス7号館 702教室

3) 定足数：総合司会の柴本淑子理事より、総会出席者数（書面による議決権行使者を含む）は86名（会場26名、委任状60名）で、定足数（75名）を満たしているとの報告がありました。議長の池口武志理事より、議事録作成は岡田慶子運営委員、議事録署名人は荒井浩道理事が指名されました。引き続き、第1号議案（2024年度事業報告）、第2号議案（2024年度収支決算報告）、第3号議案（2025年度事業計画案）、第4号議案（2025年度収支予算案）、第5号議案（運営委員辞任について）まで、各担当理事から説明が行われ、満場一致で承認されました。

(2) 創立25周年記念大会（2025年度第24回大会）

1) 日 時：2025年6月7日（土） 13:00～16:40

2) 会 場：総会会場と同じ7号館702教室（オンライン併用）

3) 大会テーマ：「いま、なぜシニアの社会参加なのか」

■ 参加者：会場参加者47名（会員29名）、オンライン参加者37名（会員21名）、計84名（会員50名、千葉商大学生含む非会員34名）。申し込みされながら参加できなかった人については、録画視聴をお願いしました。



■ はじめに袖井会長の挨拶で、シニア社会学会創設の狙いと、本大会を「シニアの社会参加の意義と意味」を考察する機会にしたいという目的について説明がありました。

■ 基調講演タイトル：「シニアが拓く『三方よし』の地域づくり」

藤原佳典（東京都健康長寿医療センター研究所副所長）さんから、SDGsに基づく地域福祉の持続可能性の実現には、世代を超えた包括的な地域戦略が必要で、意図的な仕組みとして、高齢者ボランティアによる読み聞かせを通じた世代間交流プロジェクト「りぶりんと」と介護福祉分野での「高年齢介護助手」の活動について説明されました。高齢者は、地域、職場等あらゆるシーンで次世代を支援することにより、生きがい・健康長寿を享受する一お互いさまの関係性つまり「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」こそが地域共生社会の入り口です、とまとめられました。



■ パネルディスカッション：袖井会長の司会で、3名のパネリストからシニアの社会参加に関する実践的な取り組みについて報告があり、コメンテーターの藤原さんも交えて話し合いが行われました。

★池口武志さん（当学会理事、一般社団法人定年後研究所所長）は、「シニアが働き続けることの個人的社会的効果」というテーマでお話しされました。シニアが働き続けることは、生活リズムや健康維持、孤立防止、家族関係の維持、収入確保など、個人の幸



福感に大きく寄与するものの、定年後もやりがいのある仕事を続けるには、主体性やキャリアの再設計が必要です。社会的にも、シニアは経験豊富な戦力として期待されますが、キャリアチェンジには互いを知る丁寧なマッチング支援が必要で、産業雇用安定センター等の公的支援や早稲田大学キャリアリカレントカレッジ、自治体の地域住民向けセカンドキャリアセミナーなどを紹介されました。

★野中孝泰さん（当学会副会長、特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ会長）は、「シニアにとっての社会参加の可能性と意義～ナルク紹介&一人暮らしの高齢会員の日常生活支援サポート～」というテーマで話されました。ナルクは「自立・奉仕・助け合い」を理念とし、会員間の支援を時間で預け合う「時間預託制度」を特徴とするボランティア団体です。高齢会員の生活支援や孤独解消に寄与し、生きがい創出にもつながっています。一人暮らし高齢者の課題解決に向け、仲間同士の助け合いを強化しつつ、地域や公的機関との連携の重要性も認識し、支援の幅を広げていくことなどについてお話しされました。



★清水肇子さん（公益財団法人さわやか福祉財団理事長）は、「シニアの社会参加が地域社会にもたらすもの～誰もが自分を生かして、幸せに暮らせる地域づくりをすすめる地域活動の現場から～」というテーマで、①人生100年時代におけるシニアの生き方、②社会構造の変化と地域社会におけるシニアの役割、③地域活動によるシニアへの効果、についてお話しされました。最後に、全国各地で様々な形で活躍するシニアの地域活動の事例と、財団の「地域助け合い基金」による活動支援の実態を紹介されました。助け合いの仕組みづくりと共生型居場所、生活支援の助け合い活動が重要であること、そして、人生100年時代における目指す地域共生社会とは、違いを認め合い、違いが活力になる社会であるとまとめられました。



■登壇者と会場参加者の討論：袖井会長より、地域活動において男性が少ないというジェンダー格差について登壇者の皆様に意見を求めました。共感力や育てられ方の違いがあるものの、池口さんは、サラリーマンの参加は極めて少なく、まずは「住まいの自治体+ボランティア」で検索するなどネット情報の利用を勧められました。野中さんは、介護と仕事の両立は不可欠で、現役中に男女とも行動しておくことを強調され、清水さんは、男性は論理的に考えがちでプライドが壁になっているため、具体的役割を持つことで気軽に参加できるのではと提案されました。多世代での支え合いについては、企業での高齢メンターの事例をうけて「斜めの関係」の活用、また、地域社会では雑談力（スモールトーク）、リーダーの力、自然な雰囲気づくり、対等な関係性が重要というコメントがありました。支え合いの場や仕組みづくりの重要性、運営資金については地域住民からの寄付、公的支援、企業からの寄付・基金、その他住民自身の活動で資金を産み出す工夫が紹介されました。会場とのやり取りでは、千葉商科大学の学生サークル「よろず隊」が地域住民の生活支援として取り組む有償ボランティアについて、持続可能なボランティアのひとつの形として、参加者の多くが好意的な反応を示しました。最後に、濱口晴彦副会長から閉会の挨拶がありました。



■大会終了後の懇親会では、非会員12名も含め、35名の参加者を得て、和やかな交流の場を楽しむことができました。今回は袖井会長が詩吟を披露してくださり、大いに盛り上がりました。



◆最後にアンケート結果からいくつかのご意見をご紹介します。

アンケートへの回答は32名（会員22名、非会員10名）

- * 少子化が予想以上に急速に進む中で、社会における役割分担が大きく変わらざるを得ないと感じています。そのような中でシニア世代が果たすべき役割について考えるテーマであり、またシニア世代自身の幸福な人生についても考えさせられる良いテーマであると感じました。（会員、60歳代、女性）
- * 自分自身が地域で活動していることに非常に役に立ちそうな話が聞けた（会員、80歳代、男性）
- * 社会参加の幅が広いので多様な切り口での発表が参考になった。（非会員、60歳代、男性）

- * 「三方良し」の一側面として多世代交流・ジェンダーの話が大変参考になった。今後は、多様性の例に外国人の問題が増えてくると思う。(会員、80歳代、男性)
- * 地域における世代間交流のしくみの重要性とそこでの高齢者の主体的なボランティア活動、就労の意味について大変勉強になりました。(会員、50歳代、女性)
- * それぞれの立場からの具体例が参考になった。多様性、双方向性、尊厳の関係をどうバランスよく維持していくことの難しさを日頃から感じている。(会員、80歳代、男性)
- * 大変参考になりました。特に自分自身の立場・境遇(60歳・独居)を重ね合わせながら、考えさせられる部分、身につまされる部分が多々ありました。(会員、60歳代、男性)
- * とても勉強になりました。もう少しディスカッションの質問があると更に良いと思いました。(非会員、70歳代、男性) (松島悦子 記)

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第107回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年6月23日(月) 15:00~18:00
 - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
 - 3) テーマ：「コミュニティとアソシエーション—主体的な『務め』(地域貢献)による『居場所』(地域とのつながり)づくり」 発表者：森嶋 由紀子
 - 4) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願い致します。

(2) 第63回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年6月24日(火) 17:30~19:30 Zoom開催
 - 2) テーマ：シニア世代と生成AI
これからの「暮らし」と「教養」に生成AIを：研究会メンバー 渡邊哲哉
- ※ ご連絡ご質問は、中村昌子(nakamurayoshiko6@gmail.com)までお願いします。
現役世代の渡邊さんがシニア世代へ向けて発信する貴重な情報ですので、出来るだけ多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

(3) 第59回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年6月25日(水) 15:00~17:00
 - 2) 場 所：Zoom開催
 - 3) 報告者：全員で検討
 - 4) 概 要：「高齢者向け情報リテラシー教育」についてさらに詳しく議論する予定
- ※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(4) 第171回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年6月25日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者：近藤和子(看護師、マザーリング&ライフマネジメント研究所代表)
 - 3) テーマ「草の根のACP(人生の最終段階における意思決定)」
 - 4) オンラインで開催いたします。
- ※ 参加を希望される方は、阿部 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp にご連絡ください。
資料をお送りいたします。
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(5) 第57回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年6月28日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：YNS やまぶき任意後見、アワーズ、シニア学会員

4) テーマ：人形劇その他

劇団 ^{びしょうざ} 「B笑座」

認知症を可視化し、わかりやすくします。人形劇、寸劇など劇団員募集しています。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) までお願い致します。

(6) 第77回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2025年7月9日(水) 18:00~20:00

2) 場 所：早稲田大学26号館1102会議室(対面とZoomのハイフレックス開催)

3) テーマ：「東日本大震災の災害伝承に向けた取り組み：大槌町安渡地区伝承マップの作成と活用を事例に」(仮) 報告者：野坂真(青森公立大学経営経済学部 地域みらい学科 准教授)

※ ご連絡ご質問は、松村治(o.matsumura@kurenai.waseda.jp)までお願いします。

3. 各研究会の概要報告

(1) 第75回「災害と地域社会」研究会の報告

1) 日 時：2025年5月21日(水) 18:00~20:00

2) 報告者：松村 治(地域社会と危機管理研究所 招聘研究員)

3) タイトル：「地方都市の未来を決めるもの ―鶴岡市における地域コミュニティの活動と住民の地域への愛着―」

4) 場 所：オンライン開催

私は以前から続的に鶴岡市をおとすれていたが、7年ほど前に鶴岡市の衰退傾向が感じられたので、現状を知ったうえで対応ができないかと考えた。医療環境としては、新しい事業管理者のもとで医師数が確保され、病院の機能は回復している。商店街については、多くの店が閉店している状況は続いている。2001年に鶴岡市と山形県が誘致した慶応大学の先端生命科学研究の研究成果とそれを活かしたベンチャー企業の活動拠点がサイエンスパークとして鶴岡市に貢献している。町内会などの地域活動は中心市街地と周辺15地区では異なっている。中心市街地では若い世代が郊外へ移住し、町内会での人間関係は希薄化している。一方周辺15地区では人口減少への危機感から、田川地区、黄金地区のように新しいイベントを開催して毎年それを継続しており、そのことが地域の結束を強め、大人も子どももその地域への愛着を高めている。鶴岡市の現状についてまとめてみると発展に向かう要素として、それぞれの周辺地域の主体的な地域コミュニティの活動は住民の地域への愛着を高めている。またサイエンスパークの存在は、その存在自体が市民を勇気づけるものである。その一方で衰退が危惧される要素として、中心市街地ではイベントなどがマンネリ化し地域に対する愛着が醸成しにくくなっていることがある。中心市街地、周辺地域の共通の課題として自分の住む地域だけに意識が固定化し、鶴岡市全体への意識の広がりを感じにくいことがある。市内の異なる地域の住民が、居住している地域だけでなく市全体を考える心の広がりをもつことが必要である。(松村治 記)

(2) 第170回「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2025年5月21日(水) 18:00~20:00

2) 報告者：金 貞任(東京福祉大学教授)

3) テーマ「アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning:人生会議)の現状と情報提供について―要介護高齢者の家族介護者を中心に―」

4) 参加人数：17名

日本では、本人の意思決定能力が困難な時に、医療ケアに関する決定に対して本人の意思を優先するためにアドバンスケアプランニング(Advance Care Planning)、通称「人生会議」が実施されている。しかし、一般市民のACP認知度は5%未満と非常に低いため、本研究では、家族介護者のACPに関する現状と知りたい情報を検討することを目的とした。2021年に群馬県の過疎地域と1市で、

自宅で高齢者を介護している家族介護者を対象に調査を実施した。その結果、70歳以上の家族介護者が全体の70%を占めた。ACPに関して、「よく知っている・知っている」と回答した割合は11.6%。ACPに関する会話をしたことがある家族介護者は16.2%であり、受たい医療や受たくない医療の書面作成は3.7%に過ぎなかった。さらに、人生の最終段階における「末期の延命治療」と「苦痛を和らげる緩和医療」に関する会話は、要介護高齢者との間で行われており、「植物状態の延命治療」に関する会話は、要介護高齢者の子どもとの間で行われる傾向が見られた。ACP認知度の平均値は、女性、学歴が高い、経済的に余裕がある家族介護者で高く、「苦痛を和らげる緩和医療」と「植物状態の延命治療」に関する会話をする家族介護者でも高い傾向が見られた。ACPに関する情報提供は、行政関係者や医療専門家がそれぞれ7割以上を占め、人生の最終段階における知りたい情報としては介護や医療サービスが最も多く、次いで情緒的サポートが挙げられた。ACP認知度を高めるためには、人生の最終段階における医療や介護サポートを含めた教育や講演会の実施が重要であり、公的機関や医療専門家による取り組みが必要であることが示唆された。(金貞任 記)

(3) 第106回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2025年5月22日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：「コミュニティの原点・村落共同体に学ぶ」 発表者：大下勝巳

大下さんは、コミュニティの原点・村落共同体の基底を成す農村の社会形態について、『村の社会学』（鳥越皓行著・ちくま新書）を参考にまとめ、現代の都市コミュニティ形成にどう活かせるかを考え、4つのテーマでまとめられた。(1) 農村とは稲作を中心とするまとまりのある地域単位の生活組織である。個人の域を越えた共同作業・集落機能は、村落共同体のコミュニティをつくり、その中でソーシャルキャピタルを形成する。(2) 農村コミュニティを構築するソーシャルキャピタル形成過程(成り立ち)として10項目を挙げた。(3) 都市コミュニティが農村コミュニティと異なる点として、6項目の課題を列記した。(4) 農村コミュニティの知恵を都市コミュニティにどう活かすかというテーマについては、①住民それぞれの知識・経験等を活かし新たな地域資源をつくる。②住民相互のつながり・交流を深め、同一性・共通の居場所づくり。③敢えて今一度、バカ者・若者・よそ者による新たな地域づくり。④補完性の原理を今一度見直す。⑤コミュニティの一員としての「務め」を果たす。⑥地縁型活動をベースにしつつもテーマ型コミュニティの創設に力を入れると述べられた。

濱口座長は、今日コミュニティという人間結合の形式受難の時代を迎えている。コミュニティは息絶え絶えのようだけれども、わたしたちの身边には人と人の繋がりを肯定的に受け入れ迎えると言われた。そして人間結合の観点から整理する場合、アソシエーションとコミュニティという集団分類で整理すると、コミュニティである。また、2015年9月25日危機の時代の羅針盤として国連総会で決議されたSDGsは、2030年までの目標達成はなかなか難しいとの一般の見識であることについての視点は、コミュニティへの期待がいかに大きいかを物語っている。現代風に言いかえれば、“板垣退助死せども、コミュニティ死なず”でないかとコメントされた。(島村健次郎 記)

(4) 第56回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

1) 日 時：2025年5月24日(土) 18:30~20:30

2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)

4) テーマ：人形劇、色カルタ

(鈴木眞澄 記)

(5) 第58回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2025年5月28日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：「高齢者の情報リテラシー」の枠組み検討／ 報告者：全員で検討

5) 概 要：事前配布の枠組みについての資料を基に議論

【議論の要点】

- AIによる会議要約機能や情報リテラシーについて議論が行われ、参加者はAIの利点と限界、個人情報保護の重要性について意見を交換した。
- 高齢者向けの情報リテラシー教育の枠組みが提案され、その実践における課題が指摘された。
【意見交換と以降の検討事項】
- 高齢者のスマホ利用の悩み
「ポイントをためる」方法が未だよくわからない、「QRコード決済」で時間がかかり、支払い時に小銭を出して時間がかかる高齢者と同じような気持ちになってしまうとの悩みが語られた。
- AIによる会議要約機能の利用について、利点と限界や信頼性について意見がでた。
- AIの倫理的な使用と個人の責任について議論が行われた。
- ChatGPTを利用して「情報リテラシーの枠組み」を示したので、今回はAIに示したプロンプトを基に、高齢者向けの情報リテラシー教育についてさらに深く議論する。（森やす子 記）

(6) 第62回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日時：2025年5月28日（水） 17:30~19:30 Zoom 開催

2) テーマ：生活習慣病を防ぐには：「食について考える」 健康管理士 長谷川洋

テーマ「生活習慣病を防ぐには：『食』について考える」は、予め準備したパワーポイントを見ながら説明させて頂きました。人生100年時代を生きる為には、まず健康であり、生活習慣病予防の鍵は如何にして食生活をコントロールすべきかにあります。誰にも関心のある「食」については、参加者の皆さんがそれぞれに興味を持ち、自分の考えや体験を話され、和やかな会話を挟んで進められ、有意義な時間を共有することが出来ました。将に食べることは生きることに繋がり、身近なところでは毎日の食事内容をどのように選択するかに繋がります。最初に、考えるキーポイントとして、陸軍経理学校卒の川島四郎氏が書いた古典的な本「食べ物さん、ありがとう」から、考えるヒントを抜粋して、人体にとってなぜ青野菜が大事か、葉緑素とヘモグロビンの関係などについては栄養学にも言及しました。また、ロジャー・ウィリアムスの「生命の鎖」について、生命の維持するためにはビタミン、ミネラル、必須アミノ酸など46種類の栄養素を、毎日の食事から意識して摂取することの大切さを考えました。一例として、7種類の野菜を煮込んで造るヒポクラテススープの効用について取り上げ、皆さんからの感想や意見では、野菜の薬効は分かっても、美味しくないと敬遠にも納得です。紀元前5世紀のヒポクラテスの名前の付いたスープにて、野菜を見直す機会となれば幸いです。

最後に今年の2月にNHKラジオ深夜便にて、ご自身の対談の中で紹介された本「生涯現役のための健康長寿生活 92歳、栄養学者。ただの長生きではありません！」について語られ、香川氏は、自分のテロメアと相談して現職を引き受け、今なお女子栄養大学の副学長として活躍されています。大学がある埼玉県坂戸市民に葉酸の摂取を薦め、医療費を減少させるなどには驚かされます。今回のテーマは結論がなく、これかも皆さんと一緒に考えたいと思います。（長谷川洋 記）

4. 事務局からのお知らせとお願い

<2025年度「エイジレスフォーラム」第23号送付のお知らせ>

「エイジレスフォーラム」第23号を総会欠席の会員各位に、学会に登録ある住所宛に送付が15日に終了しました。「エイジレスフォーラム」と共に2025年度年会費未納者には振込用紙が同封されています。納期締め切りは6月30日、速やかに納入くださいますようお願いいたします。

JAAS News 編集長 松島悦子

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/